

第9回 台東区民憲章策定区民会議 議事概要

日時：平成18年11月6日(月) 19～21時15分

場所：台東区役所1002会議室

次第

1 議事

パブリックコメントの結果報告について

台東区民憲章の最終案について

・前文について

・本文について

区民憲章策定後の推進活動について

今後のスケジュールについて

配布資料

- ・台東区民憲章「草案」に対するパブリックコメントの結果について(資料1)
- ・パブリックコメントを踏まえた、対応例について(資料2)
- ・台東区民憲章の普及・啓発について(資料3)
- ・条文毎の活動目的例、実践活動例について(資料4)
- ・西東京市における推進活動案(参考資料)

議事概要

懸田会長

- ・本文の内容についてのパブリックコメントの意見は、ほとんどがこれまで全体会議、及び草案作成グループ会議において相当な時間をかけて議論されてきたこと、また、主旨は盛り込まれていることであり、修文する必要はないのではないかと考えられる。ただし、もっと見やすいように工夫をする必要があると思う。前文については、パブリックコメントを受けて多少の修文の余地があるように感じている。

【パブリックコメントに対する対応について】

- ・パブリックコメントを何度も読み返したが、区民会議委員とそれ以外の区民との間のコミュニケーション不足を感じた。区民憲章について、ほとんど知らない人もいる。パブ

リックコメントの意見を踏まえた何かしらのニュアンスを受け入れることで、区民に共感を得られやすい憲章になるのではないか。

- ・ 個人的には草案の内容を変える気はほとんどないが、パブリックコメントについてきちんと議論をするというプロセスは大切だと思う。憲章を知らない人の意見もみられるが、これから区民憲章を公表していけば、憲章を目にする人のほとんどは区民憲章が何なのか知らない人である。結果はともかく、パブリックコメントの指摘は検討していく必要がある。
- ・ パブリックコメントには賛成意見は出て来にくいので、概ね賛成されたという理解でよいのではないか。受け入れるとすれば、読みやすく縦書きにするということのみでよい。
- ・ 区民憲章の策定は、文学的な作業を1人ではなく皆で取り組むことに難しさがあった。練りに練った文章であるので、自分たちが納得するかどうか重要ではないだろうか。文学作品への批判は甘んじて受け入れるしかない。ただ、「あしたへ」という副題は、本文の前につけた方がよいように思う。そうすることで、本文冒頭の「たからもの」へのつながりもよくなる。

前文・本文を合わせた全体が区民憲章であるという理由から、前文の前に「副題」をつけた経緯がある。

- ・ パブリックコメントがまとまった段階で、会長談話などという形で、これまでの策定の経緯を語ってもらい、きちんと議論を行い対応したことを説明した方がよいのではないか。

事務局

パブリックコメントについては、意見の分類ごとに回答を公表するという対応するつもりである。

- ・ 本日の会議は、パブリックコメントをいただいた人に対してお礼を述べて、「真摯に検討いたします」という回答を行うことが出発点にあるのではないか。
- ・ 多少なりとも異論が出てくるのは仕方がない。ただし、区民憲章の制定の趣旨、策定の経緯をきちんと回答していくしかないのではないか。
- ・ パブリックコメントを出した人に対するフォローアップが必要ではないか。匿名で出している人には難しいが、名前と住所がわかる方には会議の開催を通知するなど、興味を持ってくれている人達に何かしらの対応が必要ではないか。また、インターネットで議事概要を公開するだけでなく、例えば、議論の経過を生涯学習センターなどにチラシとして置いてはどうか。
- ・ これだけの人数のパブリックコメントがあったことは、台東区として非常に意味があることである。パブリックコメントにはさまざまな意見があるが、これまでの区民会議の策定プロセス、策定にかけた気持ち、時間を考えると、策定したものには自信を持って

公表してよいように感じる。ただ、パブリックコメントに耳を傾けるのであれば、縦書きにするなど受け入れるものは受け入れればよい。

【前文について】

- ・ まず歴史があって、その上に現在があり、そして明日（未来）へとつながるといった表現が、前文には足りない気がする。どの言葉を採用するかは別にして、全体としての対応の方向としては、資料2にあるような言葉を検討することでよいと思う。
- ・ 草案作成グループでの議論は、いわば言葉を削る作業であった。言葉を追加することで饒舌になり過ぎると憲章の趣旨がぼやける気もするが、新たな言葉を追加するのであれば、全体会議として言葉を磨いていく必要がある。
- ・ 資料2で新たに提案されている言葉は、草案作成グループでは、議論し尽くされた言葉である。パブリックコメントの意見内容をどの程度重視するのか。産業や芸術に代わる言葉を、膨らみのある表現として考え抜いた経緯を十分に考慮していただきたい。
- ・ 全体としては、これまでの草案作成グループでの検討経緯を十分に考慮していただきたいという立場だが、あえて言葉を追加するとすれば、資料2の「多彩な芸術・芸能・産業でにぎわい、」が想定される。ただし、文章が長くなりすぎるので、途中で文章を切るなど工夫が必要である。
- ・ パブリックコメントをみて、反響の大きさに驚いている。1度つくった草案を作り変えるのは草案作成グループ以外の区民会議委員の役割だと考えている。あえて言えば、資料2の「多彩な芸術・芸能・産業でにぎわい、」がよいと思うが、「産業」という言葉の使用には違和感がある。
- ・ 「産業」は匠の技が発展して産業となるので必要ないのではないか。また、「台東区は～」という主語の書き出しに「今も息づいています」という下りがつながっておらず、違和感があるので、「台東区には～」の方がよいのではないか。

台東区を人格とみるか、場所とみるかでニュアンスが異なる。草案作成グループでも検討にはなった。語感としては「台東区には～」の方がよいように思う。
- ・ パブリックコメントを尊重するのであれば、資料2の「さらに伸びゆくすみよいまちを目指して、」が副題の「あしたへ」につながっていてよい。「台東区には～」は、主語としての「台東区は～」を強調する言葉であろう。
- ・ 資料2の「多彩な芸術・芸能・産業でにぎわい、」と「さらに伸びゆくすみよいまちを目指して、」を採用する形がよいと思う。
- ・ 資料2の「多彩な芸術・芸能・産業でにぎわい」という表現から「産業」を抜いたものを追加することでよいのではないか。下段は「さらに伸びゆくすみよいまちを目指して、」という表現が簡単でよい。
- ・ 個人的には、前文は「台東区には～」にした方が、流れが出てよい。また、資料2の「さ

らに伸びゆくすみよいまちを目指して、」を採用することで、「あしたへ」という副題にもつながり、本文にもつながるのではないか。

【本文のひらがな表記について】

- ・ 前文については表現、内容とも素晴らしく草案のままでよい。ただし、本文の平仮名表記については、周囲の方からも読みにくいという言葉が頂いており、少し気になる。パブリックコメントの意見にも耳を傾けるべきでは？
- ・ 広報たいとう号外をみたが、確かに横書きになっていて読みにくかった。縦書きにしておけば、平仮名表記への反対意見もこれほど多くなかったのではないか。また、台東区の広報に「共生社会」という言葉があったが、高齢者や子ども、点字利用者などの読み手を想定すると、漢字と平仮名などを使い分けて2～3種類の表記を考えた方がよい。
- ・ 本文に入るといきなり平仮名になるので唱和しにくい。漢字を含む表現の方が読みやすいのは間違いないだろう。とはいえ、区民会議として平仮名を選択した経緯もあるので、書き方を工夫する方向で検討してはどうか。
- ・ 山口仲美著「日本語の歴史」(岩波新書)には、平仮名は女性が使う言葉という説明があった。私の周囲では、比較的女性の方が平仮名の受けがよかった。台東区では、文化の発信地として平仮名の使用を思い切ることも必要ではないか。ただし、そのためには区民憲章の副読本が必要である。今後、区民憲章を区民に説明していく際には、様々な疑問や質問にきちんと回答できる副読本を作成する必要があるのではないか。

事務局

副読本については最終案が固まり次第作成にとりかかりたい。

- ・ 平仮名表記についてここまで反対意見があったのは、逆に言えば反響が大きく、ある意味、平仮名表記で意図していた通りとも言える。平仮名表記については前回の全体会でも議論となった。これからの推進活動を通じて、どうして平仮名表記であるかを説明していく必要があるという意味では、推進活動を押し進めていくよいきっかけになるのではないか。
- ・ パブリックコメントでは、区民憲章をどうして策定するのか、不要ではないかという意見を読み取ることができた。今後、こうした意見に対して、区民会議として説得する力を持たねばならない。なかでも最も再検討が必要に感じたのは、平仮名表記の問題である。平仮名を別の形にしてほしいという意見が圧倒的に多かった気がする。パブリックコメントの意見を踏まえて、文字間を空け、縦書きに表記することで、回答としてはどうか。広報たいとう号外については、横書きにしたことでかえって参考となる反対意見を多く引き出すことができたのではないかと思う。ただし、一般に表記を規制すること

はできないであろう。

- ・ 縦書きにして文字間を空けることで読みやすくなるのではないか。平仮名より漢字の方が連想する力は強いが、連想を固定化する恐れがある。例えば、「たからもの」という言葉は、精神的なものもあれば物質的なものもあり、各人によって連想するものは異なる。
- ・ 「にぎやかな」という表現を嫌う人に対しては、副読本をつくる前に説明する必要があるのではないか。また、主たる表記方法は平仮名でよいと思うが、その一方で現在の前文に使われている漢字は、小学生には難しいように感じる。
- ・ 区民憲章は、16万区民全員のものであり、台東区民の暮らしの方向性、希望を示すものと理解している。そうした意味では、パブリックコメントにある批判的な意見は、そうした方向性や希望に共感を得られなかった側面もあるものと理解している。縦書きもよいが、漢字は大切な日本文化である。個人的には全文平仮名ではなく、漢字を使用してほしい。スケジュールは際限なくあるものではないが、ここでパブリックコメントを真摯に振り返るのも有効ではないか。

【策定のスケジュールについて】

- ・ 資料2の事務局案はベターな表現だと思うが、憲章は長い年月残るので、ベストな案を作成した方がよい。これから100年先まで憲章の内容を継続させていくためには、今年度いっぱいかけてベストに近いものを検討し続けた方がよい。
- ・ 区民憲章は、委員のものではなく、区民全員にとってベストなものである必要がある。パブリックコメントだけでは意見収集として弱いのではないか。最終的には、例えば、草案に対して意見を持つ区民をフォーラム形式で集めて説得していく場が必要ではないかと感じている。もう少し検討する時間を重ねてはどうか。
- ・ パブリックコメントの平仮名の問題、文字間を空けることについては、対応を公表していく必要がある。策定を急ぐ必要はない。
- ・ 学識委員、事務局が主役なのではなく、区民会議委員が主役であることを十分に考慮すべきである。
- ・ 策定を急ぐ必要はないという意見に全面的に賛成である。賛成だから意見を投じないということはないのではないか。パブリックコメントを通読すると、区民憲章を理解できている区民は少ない。今、ここで急いで策定すると、行政だけが策定したものと何ら変わらず区民主体で策定した意義が薄れるのではないか。

事務局

策定については、期限があるものではない。現在の区長が立案した区民憲章であるので、現在の区長の在任中に提出するのが一般的には望ましいとは考えられるが、それにしぼら

れるものでもない。

- ・ 区民会議のスケジュールの組み方を反省すべきであろう。パブリックコメントはもう少し早く実施し、意見に対して回答する時間を十分に設けるべきであった。本来は、今年度いっぱいかけてベストな区民憲章を策定するのが理想であると思われるが、今月中に何とか工夫できないか考えてみたい。そうするためには、もう1度全体会議を開催して検討する必要があるように感じる。
- ・ 区議会議員の都合に合わせる必要はない。区議会では、区民会議として区長に提出されたものを受けて議論することとなる。区議会選挙があったとしても、区議会議員として任期中は責任をもって審議する。

垣内副会長

- ・ オブザーバーという立場で意見を申し上げたい。これだけ多くの、かつ踏み込んだ意見が出てきたのは、平仮名表記にした戦略の成果ともいえる。否定的な意見は必ずみられる。例えば、過去に世界遺産の調査を行った際には、税金を投入してなぜ、そうしたことを行うのかという意見が一定程度みられた。否定的な意見に対しては必ずしもネガティブに捉える必要はない。パブリックコメントの意見を考慮して憲章ができあがったことをきちんと残す必要があろう。また、憲章の文章を策定することが最終目標ではないことは、コンセンサスが取れているので、推進活動として、今後何をすべきか議論することが必要であろう。

三輪副会長

- ・ 「永すぎた春」という言葉があるが、これ以上議論をしてもマイナスの効果の方が大きいと思われる。他都市の例をみると、一朝一夕で区民に区民憲章の理解してもらうことは難しい。そのためには長い年月が必要である。区民会議としては、漢字仮名交じり文章の良さは十分に理解したうえで、それでもあえて平仮名表記にしていることでメッセージ性が強く出ている。これまでの1年数ヶ月は、「台東区らしさ」に始まり、「台東区らしさ」に終わった議論であった。平仮名表記は、この「台東区らしさ」に合致していると思う。「台東区らしさ」は心意気と優しさであると感じている。こうしたものは平仮名表記で表現されているように思う。

懸田会長

- ・ 区民会議としての意見はあっても、縦書き、横書きなどの表記はある程度臨機応変に対応していかざるを得ないだろう。それ以外の前文の修文について、来週もう1度開催することについてはいかがだろうか。

- ・ 草案作成委員が草案をなおすことは難しい。次回はオブザーバー的な立場で参加させていただければありがたい。

- ・ パブリックコメントを出している人には説明する時間が必要ではないか。

パブリックコメントを出している人個別に対応することはパブリックコメントの対応として適切であろうか。当初は、策定にこれほど時間がかかるものとは思っていなかった。これ以上策定に時間をかけると、肝心の推進活動のエネルギーが減少していくことが懸念される。

区民会議の委員だけで全区民を相手にすることは大変難しい。どんなに時間と手間をかけても限界がある。これ以上、同じことを繰り返して、「永すぎた春」になることは避けたほうが良いのではないか。

懸田会長

- ・ それでは、全体会を 11 月 14 日（火）に開催し、最終案を確定させることとする。

以上